



**CHIYODA**  
CORPORATION

# 株主通信

2016年度 中間報告書

2016年4月1日～2016年9月30日

千代田化工建設株式会社  
証券コード6366

## 株主の皆様へ



千代田化工建設株式会社  
代表取締役社長

澁谷省吾

平素より千代田グループへのご支援を賜り心からお礼申し上げます。

ここに、当社グループの2016年度中間期（2016年4月1日から2016年9月30日まで）の概況についてご報告申し上げます。

当年度は中期経営計画「時代を捉え、時代を拓く」の最終年度に当たります。これまで推し進めてきた「成長戦略」「基盤整備」の諸施策を仕上げつつ、業績の回復を目指すとともに企業価値の向上を図ってまいります。

LNG分野では、現在遂行中の豪州、米国、ロシアでの案件に加え、インドネシアにおいて新たにプロジェクトを受注いたしました。石油・化学・金属分野とともに、様々な地域への事業展開を進めてまいります。

さらにサブシー（海中・海底）関連分野では、前年度末に設立したイーマス・千代田・サブシー・リミテッドが海洋ガス田開発のプロジェクトを受注するなど健闘しております。この他にiPS細胞の活用や再生医療などのライフサイエンス分野での事業拡大や、ビッグデータ解析技術・AI（人工知能）技術の活用に取り組み始めました。

原油価格低迷や世界各地の地政学的リスクの高まりなど事業環境の先行き不透明感は続きますが、未来を見据え進むべき方向を定めて、新たな時代のエンジニアリング・ビジネスを切り拓いてまいります。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

# 中期経営計画 現況報告

2013年度に策定した4カ年の中期経営計画「時代を捉え、時代を拓く」は、最終年度を迎えました。これまでに推し進めてきた「成長戦略」「基盤整備」の進捗状況は以下のとおりです。

## 1 成長戦略 コア事業の強化

米国における大型LNGプラント建設案件の着実な遂行や現地顧客向けのエンジニアリングサービスを提供するほか、インドネシアでのLNG拡張プロジェクトを受注するなど、地域展開を進めてまいりました。ガス・LNGプロジェクト分野では新規案件の動向に不透明な面も見られますが、当社はしっかりとした営業戦略とグローバルな遂行体制の拡充のもと、将来に向けた地歩を固めております。

## 2 成長戦略 オフショア及びアップストリーム分野の取り組み

本年3月のシンガポールのイーマス・千代田・サブシー・リミテッド（ECS社）の設立により、海洋分野における資源開発バリューチェーンを全て遂行できる体制を整備しました。さらに、9月には、ECS社への日本郵船株式会社の資本参加が実現しました。海運分野での同社の技術・知見・経験を生かし、事業展開を加速化します。

## 3 成長戦略 その他の新分野の取り組み

ライフサイエンス分野では、従来より手がける医薬品事業が順調に拡大したことに加え、新たにiPS細胞由来の再生医療への取り組みを開始しております。また、2020年に向けて海外から水素を運び、発電燃料として利用する水素サプライチェーンの実証プロジェクトを進めております。さらには、ビッグデータ解析技術およびAI（人工知能）技術を用いて各種プラントの運転・保全支援のための先進的なサービスの提供を目指してまいります。

## 4 基盤整備 オペレーションインフラの整備

データマネジメント強化のために進めてきた経営基幹システムの展開については、国内主要子会社への導入に続いて海外子会社への導入を進めています。また、グループ企業間での人材活用を促進するためのグローバル人事施策の整備により、当社グループの従業員一人ひとりが存分に力を発揮できる体制を整えてまいりました。

# トピックス

## 挑戦を続けるLNG分野 / タングーLNG拡張プロジェクトの受注

2016年8月25日、インドネシアのBP Berau社向けタングーLNG拡張プロジェクトのEPC（設計・調達・建設）契約調印式がジャカルタで執り行われました。本年2月のEPC競争入札から、インドネシア政府当局の承認取得、7月の顧客による最終投資決定を経て、契約締結に至ったものです。当社は、実績豊富な同国で、2020年の完成を目指して新たなLNGプロジェクトを開始しました。

首都ジャカルタから約3,000km離れたインドネシア西パプア州でBP Berau社が運営する既設サイトに、年産380万トンの第3系列LNG液化設備を増設します。イタリアSaipem社、インドネシアのTripatra社およびSAE社とジョイントベンチャーを組み、信頼性の高いプラントを納入すべく、EPC業務に取り組んでまいります。



## オフショア及びアップストリーム分野の事業展開

2015年度末に設立したイーマス・千代田・サブシー・リミテッド（以下、ECS社）とインドL&T Hydrocarbon Engineering社とのコンソーシアムは、サウジアラムコ社より、サウジアラビア王国Hasbah海洋ガス田開発（第2フェーズ）に係るEPCI（設計・調達・建設・据付）業務を受注しました。設計業務は既に開始しており、海洋設備据付業務は2017年の開始を見込んでいます。



日本郵船参画に関する覚書調印式典



ECS社保有の最新鋭海洋プラント工事専用特殊船舶

また、本年9月29日には、ECS社への日本郵船株式会社の資本参加手続きが完了しました。今後、ECS社の更なるグローバルな事業展開と、海洋資源開発事業におけるリーダーシップの発揮を目指してまいります。

## 水素社会実現への取り組み

「4,472」。この数字は、2013年4月から本年9月末までの当社子安オフィス・リサーチパークにあるSPERA水素<sup>®</sup>（水素を常温常圧で“貯める・運ぶ”ことができる技術）デモプラントへの見学者数です。海外のエネルギー大臣をはじめ多くの方に見学いただきました。

また、本年10月、「2016年日経地球環境技術賞」最優秀賞を受賞。沢山のステークホルダーに評価いただく中、当社は水素サプライチェーン実証プロジェクトを着実に進めています。2020年に向けて、世界で初めての試みとして、海外から日本に水素を運んでくるべく取り組んでまいります。



SPERA水素<sup>®</sup>デモプラント

## AIソリューションユニットの新設

本年10月、ビッグデータ解析技術とAI（人工知能）技術を用いた顧客プラント資産の価値最大化を目的として、新たに「AIソリューションユニット」を設置いたしました。

当社は、2015年初めより、既設プラントにおいてビッグデータ解析を重ね、解析技術の有効的な活用を実証することができました。今後は、同ユニットにて当社のコア技術にビッグデータ解析技術を合わせたソリューションを提供し、さらに、AI技術を加えることで顧客プラント資産の一層の経済性向上に貢献してまいります。

## 日本フィルハーモニー交響楽団演奏会への協賛

当社は、2011年より公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団の第九演奏会に協賛しています。毎年12月に横浜みなとみらいホールで開催されるこの演奏会への協賛は、地域の社会・文化活動の発展に貢献する取り組みのひとつと考えています。同演奏会には横浜市内の視覚障がい者の方々をご招待しており、当社の活動に対しご好評をいただいています。

今年の演奏会は12月27日（火）に開催される予定です。当社は本演奏会への協賛を通じて、同楽団の活動を支援するとともに、社会貢献に取り組んでまいります。



演奏会当日の最終リハーサルの様子

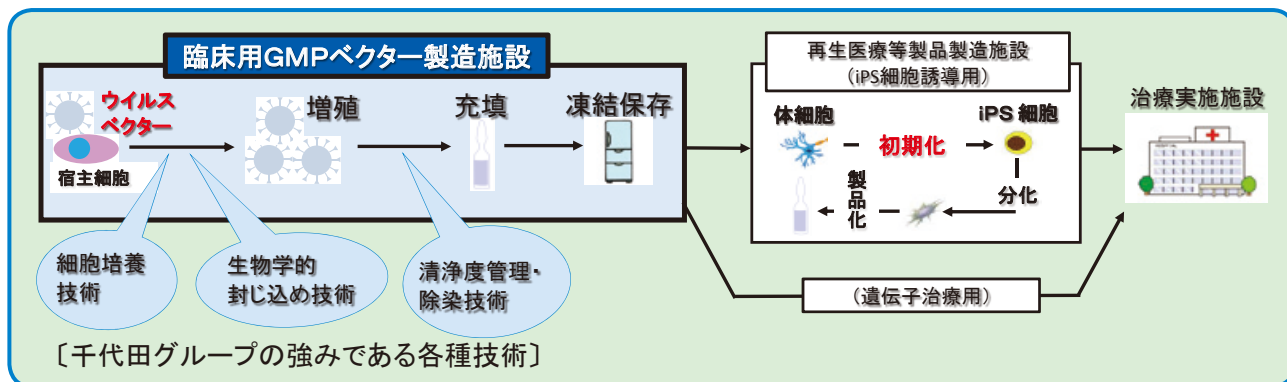
# ここをチェック!

## 医薬・ライフサイエンス分野／再生医療の実現化への取り組み

医薬・ライフサイエンス分野では、将来国際的な競争力を備えた主要産業となるよう、政府主導により積極的な技術開発と事業育成が進められています。

当社は、この中でも特に注力されているiPS細胞等を用いた再生医療の実現を加速する「臨床用GMP\*ベクター\*\*製造施設」のEPC（設計・調達・建設）業務を株式会社アイロムグループより昨年9月に受注し、本年10月3日、竣工いたしました。

この施設は、顧客子会社である株式会社IDファーマがもつベクター技術を基盤として、再生医療用途に適用可能なiPS細胞を安全かつ効率よく作製する臨床用iPS細胞作製キットをはじめ、臨床用ベクター、遺伝子治療製剤並びに再生医療等製品などを製造するものであり、日米欧のGMP基準に準拠することにより、グローバルに製品を供給していきます。



この新しい分野の施設のEPC業務遂行にあたり、当社および当社のグループ企業である千代田テクノエース株式会社は、長年医薬品分野で培ってきたGMPに関する様々な経験と、宇宙ライフサイエンス事業で習得した最新の細胞操作に関する知見を融合して取り組み、その成果に対して高い評価をいただくことができました。

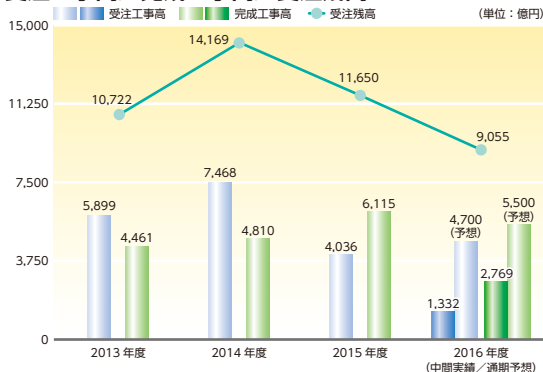
当社は、この実績で得た知見をさらに活用し、将来の健康社会の実現に貢献すべく、医薬・ライフサイエンス分野での技術研鑽と先端事業の開発に今後も取り組んでまいります。

\*GMP (Good Manufacturing Practice)：医薬品等の安全・品質管理について製造業者が守るべき基準のこと

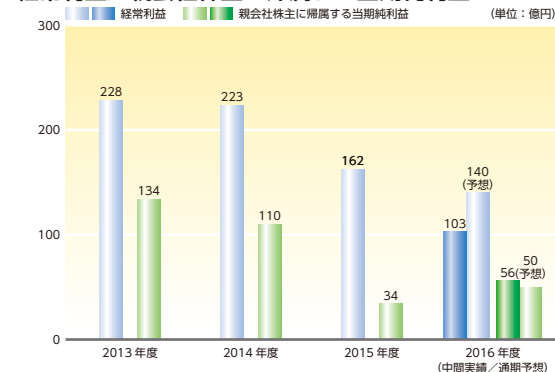
\*\*ベクター：治療用の遺伝子を特定の臓器・組織に運搬し効果的に標的細胞内へ導入する働きを持つ物質

# 財務ハイライト

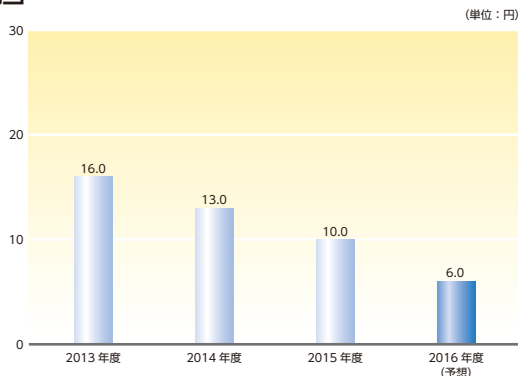
## 受注工事高／完成工事高／受注残高



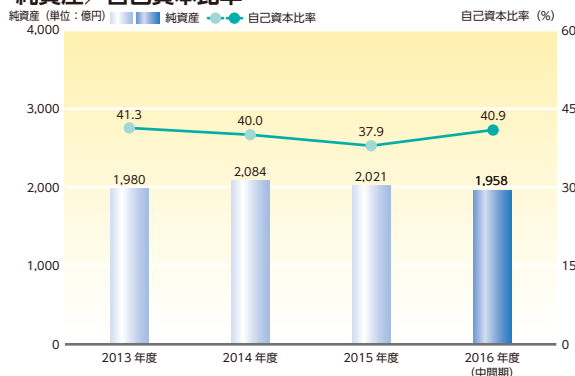
## 経常利益／親会社株主に帰属する当期純利益



## 配当



## 純資産／自己資本比率



## 監査等委員会設置会社への移行

当社は、コーポレート・ガバナンス体制を一層強化するため、本年6月23日開催の定時株主総会における定款変更決議を経て、「監査等委員会設置会社」に移行しました。この制度は、会社法で昨年より認められた新制度であり、従来の監査役会設置会社と異なる次のような特徴を有しています。

- ・ 監査役や監査役会は置かれず、代わりに、3人以上の取締役から構成され、かつその過半数を社外取締役が占める監査等委員会が置かれる。
- ・ 監査等委員である取締役は、取締役会における議決権を有しており、監査等委員でない取締役の選解任議案の決定や代表取締役の選定・解職、その他業務執行の意思決定全般に関与する。
- ・ 監査等委員会設置会社においては、重要な業務執行の決定を大幅に取締役に委任することができ、迅速な意思決定と機動的な業務執行が可能となる。

当社は、このような特徴を備えた監査等委員会設置会社に移行することにより、経営の健全性と透明性の向上および迅速な意思決定を図り、更なる企業価値の向上を目指します。

## 会社の概要 (2016年9月30日現在)

商号／千代田化工建設株式会社  
(Chiyoda Corporation)  
設立／1948年1月20日  
資本金／43,396,406,450円

### 取締役

代表取締役社長	澁谷 省吾
代表取締役副社長執行役員	中垣 啓一
代表取締役副社長執行役員	小川 博
代表取締役専務執行役員	川嶋 誠人
取締役専務執行役員	長坂 勝雄
取締役専務執行役員	児島 雅彦
取締役常務執行役員	清水 良亮
取締役常務執行役員	佐原 新
取締役	田中 伸男
取締役	中川 哲志
取締役 (常勤監査等委員)	小林 幹生
取締役 (常勤監査等委員)	高石 英明
取締役 (監査等委員)	今出川 幸寛

## 株主メモ

事業年度  
期末配当金  
受領株主確定日  
定時株主総会  
定時株主総会基準日

4月1日から翌年3月31日まで  
3月31日  
中間配当は実施しておりません。

毎年6月開催

3月31日

そのほか必要がある場合には、取締役会の決議によりあらかじめ公告のうえ設定いたします。

### 公告の方法

電子公告により行う  
公告掲載URL

<http://www.chiyoda-corp.com/>

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします。

一単元の株式の数  
上場証券取引所  
証券コード  
株主名簿管理人  
特別口座管理機関  
同連絡先

1,000株

東京証券取引所 市場第一部  
6366

三菱UFJ信託銀行株式会社

〒137-8081

東京都江東区東砂七丁目10番11号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

電話 0120-232-711 (通話料無料)



## 千代田化工建設株式会社

〒220-8765

横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号

みなとみらいグランドセントラルタワー

電話 045-225-7777 (音声案内)

<http://www.chiyoda-corp.com/>



見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。



### ■株式に関するマイナンバー制度のご案内

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式の税務関係の手続きで必要となります。このため、株主様から、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届いただく必要がございます。  
【株式関係業務におけるマイナンバーの利用】

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

[主な支払調書]

- ・配当金に関する支払調書
- ・単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

【マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先】

証券会社の口座にて株式を管理されている株主様…お取引の証券会社にお問い合わせください。  
証券会社とのお取引がない株主様……………三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。

### ■株式に関するお問い合わせ先

- 住所変更、配当金の振込指定、単元未満株式の買取請求等の各種お手続きについて
  - 証券会社等の口座に記録された株式  
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
  - 特別口座に記録された株式  
三菱UFJ信託銀行株式会社 (特別口座管理機関) にお問い合わせください。
- 未受領の配当金について  
三菱UFJ信託銀行株式会社 にお問い合わせください。

[三菱UFJ信託銀行株式会社のお問い合わせ先]

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

電話 0120-232-711 (通話料無料)